

# 『イッショウガイ』上映 +脚本家・若林佑麻トークイベント

日時：2019年11月9日(土) 14:00-17:00

場所：学習院大学



西5号館B1教室

2017製作/108分/日本 配給：ニジローモーチャー

## 障害、偏見、差別——。「多様性 (ダイバーシティ)」が謳われる

今だからこそ考えなければならないことは。

皆さんは、近年、メディアのなかで見聞きするようになった「多様性」という言葉について、どのようなもの・ことを想像しますか？ 具体的なイメージがつく方もいるかもしれませんが、おそらく大半の方は「その人のありのままを受け入れる考えでしょ？」「なんとなく社会的に良さそうな考えなのでは？」というような、ぼんやりとしたイメージを抱いているのではないのでしょうか。そういったイメージの曖昧さは、私たちが「多様性」という言葉を一種のバズワード（流行語）のようにとらえてしまっていることに起因しているからかもしれません。

今回、社会に氾濫する「多様性」の一端を捉えるべく、学習院大学身体表象文化学会では、『イッショウガイ(英題: *liFeTiMe*)』(2018)を上映します。俳優の丸若薫さんがプロデュースする演劇媒体「ニジローモーチャー」による同名の舞台作品をカメラに収めた本作は、2018年7月に第27回レインボー・リール東京～東京国際レズビアン&ゲイ映画祭～で上映され、国内外でひろく反響を呼びました。大阪に住む女子高生・マユの家庭に異変が起こり、それによって人生が一変してしまう時代と、その後東京に上京した彼女が辿る人生とのふたつの時空が、ひとつの舞台上で展開されます。

上映後、本作の企画・脚本を手がけ、俳優やラジオのパーソナリティなど幅広く活動されている若林佑麻さんをお招きし、大貫敦子教授(学習院大学)の司会のもと、本作の制作意図や背景などについてお伺いいたします。また、当日は会場からの質問も受け付け、皆さまとともに「多様性」とはなにかを検討したいと思います。

対象：学習院大学身体表象文化学会会員、本学文学会員(文学部学生・人文科学研究科院生・教職員)、本学学生・教職員

【入場無料・事前申込不要】\*受付で学生証を提示してください。